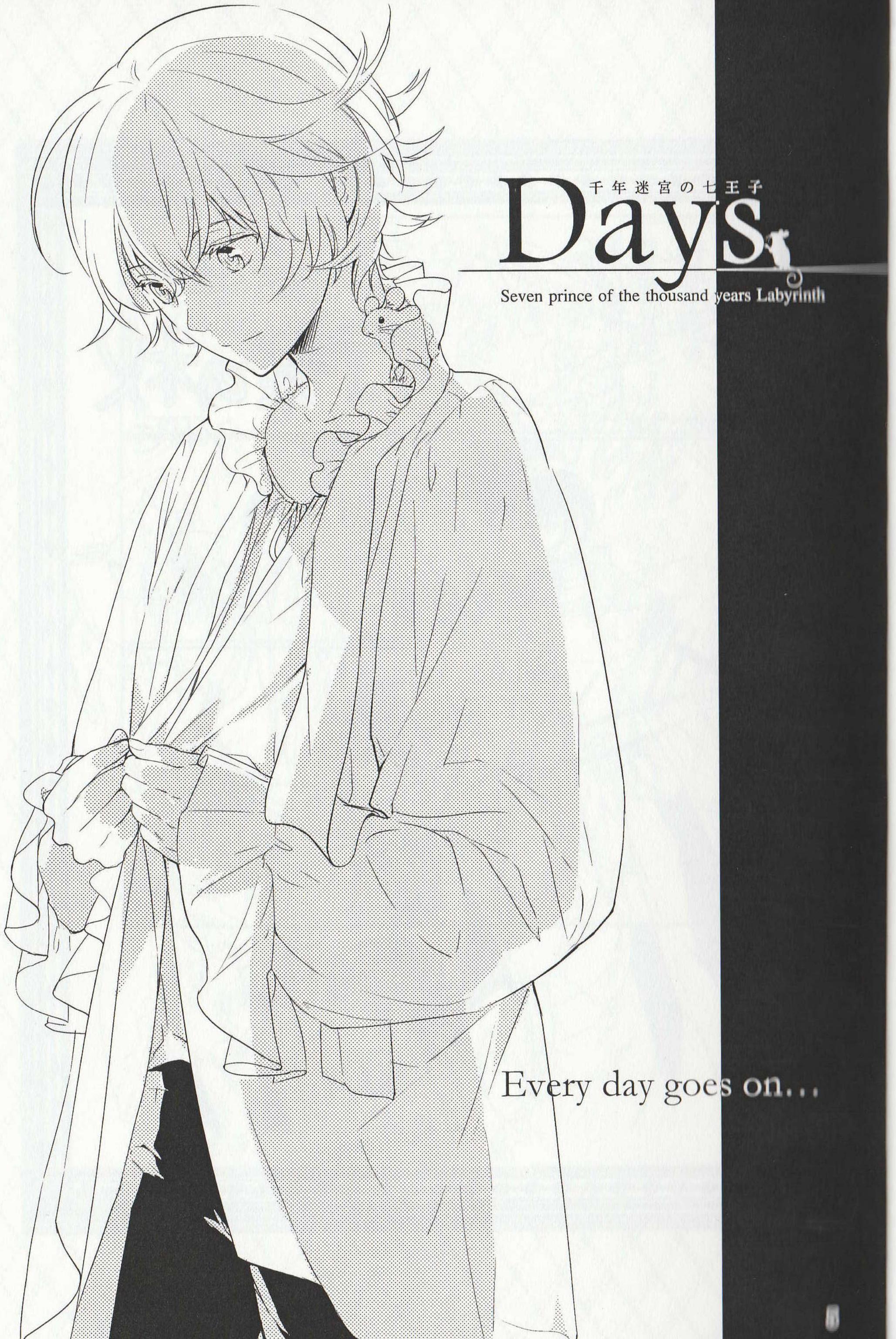
千年迷宮の七王子
Days
Seven prince of the thousand years Labyrinth

この本は

pixivの“ハル有”アカウントで
2017年8月から公開した
イラスト付き連載SS
『千年迷宮の七王子
-少年皇帝と月影の騎兵団』
に合わせtwitterにアップした
千年迷宮の七王子の
4コマ漫画を中心に
まとめた一冊です。

『少年皇帝と月影の騎兵団』本編では
帝国を揺るがす大事件が起こり
厳しい状況に立ち向かう
ユアンとその仲間たちですが、
そんな中でも
訪れては過ぎてゆく
日常的な側面などを
描いてみました。

移る季節の中で
変わっていく、
また変わらない彼らを
どうぞご覧下さい。



千年迷宮の七王子
人物紹介

※各年齢は『SS月影の騎兵団』、ユアン外遊出発前の皇帝即位一周年9月13日時点のもの。

ユアン・ジュノー＝イグニス(17)

この物語の主人公。
マグナ・エンデトリア帝国皇帝。
平凡ではあるが決して諦めない心を持つ少年。
皇帝即位前はマーレ島で平民として兄と二人暮らしをしていた。
SS月影では初めての外遊に出発するが…

ロレンス・アクロイド(19)

帝国騎士団団長。
前皇帝の実子。アクロイド家の養子でフェイという義弟がいる。
ユアンに剣を捧げた騎士で剣の腕は帝国一といわれている。
絶対守護の気概を持って今日もユアンの背中を護っている。

メサイア・リード(20)

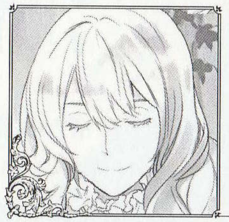
帝国七候、イスカ・リンナム領主。
宰相を務める。
元天才名探偵だが血統復古党工作員として活動した過去をもつ。
ライバルはタイタス。
SS月影では、皇帝外遊の裏である秘密を追い単独行動に出る。

オーガスト・モーガン(22)

帝国七候、パルヴァ=ノーテ領主。
法相を務める。
帝国屈指の財閥であるモーガン家の御曹司。
可憐な少女の姿だが立派な成人男性。ロレンスの幼なじみ。
SS月影では今回の外遊において数少ない皇城残留組である。

タイタス・ラム(20)

帝国七候、ルーメン領主。
軍相を務める。
盗賊団の首領の頃から身分は変わっても自由人なところは相変わらず。
ライバルはメサイア。
SS月影では自領のルーメンにてユアンの到着を待つ。



ザン・オーデュポン(24)

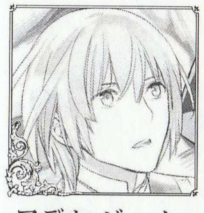
帝国七候、オクト＝ノクテ領主。
七領相を務める。
美声を誇る盲目の元カリスマ歌手。
引退した今でも帝国全土にファンがいる。
SS月影ではタイタスのいるルーメン領からユアンの旅に同伴する。

ギデオン・レッドフィールド(27)

帝国七候、ソレム領主。
財務相を務める。
七候の中では最年長。
SS月影ではソレム、ルーメンの領境までユアン達を送るが、皇城に戻ったとたんに仕事に忙殺されることになる。

ハンニバル・モーガン(24)

豪商モーガン家の養子。
オーガストの義兄で元奴隷。
現在はルーメン城にてタイタス・ラムの教育係を務めている。
忠誠心は持ち合わせているが、態度のせいか特にオーガストには伝わっていない。



アデル・ジュノー(25)

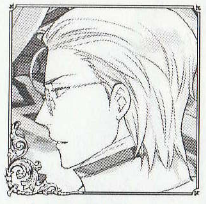
ユアンの育ての兄。
マーレ島で教師をしていた。
春から失踪していたが…

ジェド・ベル(17)

帝国騎士団、白鳳騎士団団員。
ユアンの幼なじみの双子でアナの兄。
騎士団のムードメーカー。

アナ・ベル(17)

帝国騎士団、白鳳騎士団団員。
ユアンの幼なじみの双子でジェドの妹。
騎士団の紅一点。



イスカリオット・ムーア(36)

先代のソレム領主で元宰相。
現在は宮内相を務める。
超絶堅物男。

—千年迷宮の七王子—
行楽の秋
らくがき

行楽時の警備状況マンガ
イガ栗の落下
グイッ
ビュ
シュ
わあああ…
パパパ
パシッ
↑栗
ロレンスはすごいなあ…
ギデオン たき火だ。
さっきリンゴを焼いたばかりだろ…

行楽の秋 －千年迷宮の七王子－

らくがき メサイア：夜営準備編

今週の騎士団長
運搬
見守り
邪魔です!!
↑医者
制止
いたい…
威圧
そんな目で見るな

―3話メサイアルートのハイライト―
立てない
ストーリー上最も弱った状態の元名探偵
一人で歩けない
ケガ
現地に馴染みすぎの兄ちゃん
服は多分教師をやったおれいでもらった?
after
before

今週の騎士団長2

↑一生けん命で気付いていない　↑大丈夫

皇城の仕事風景

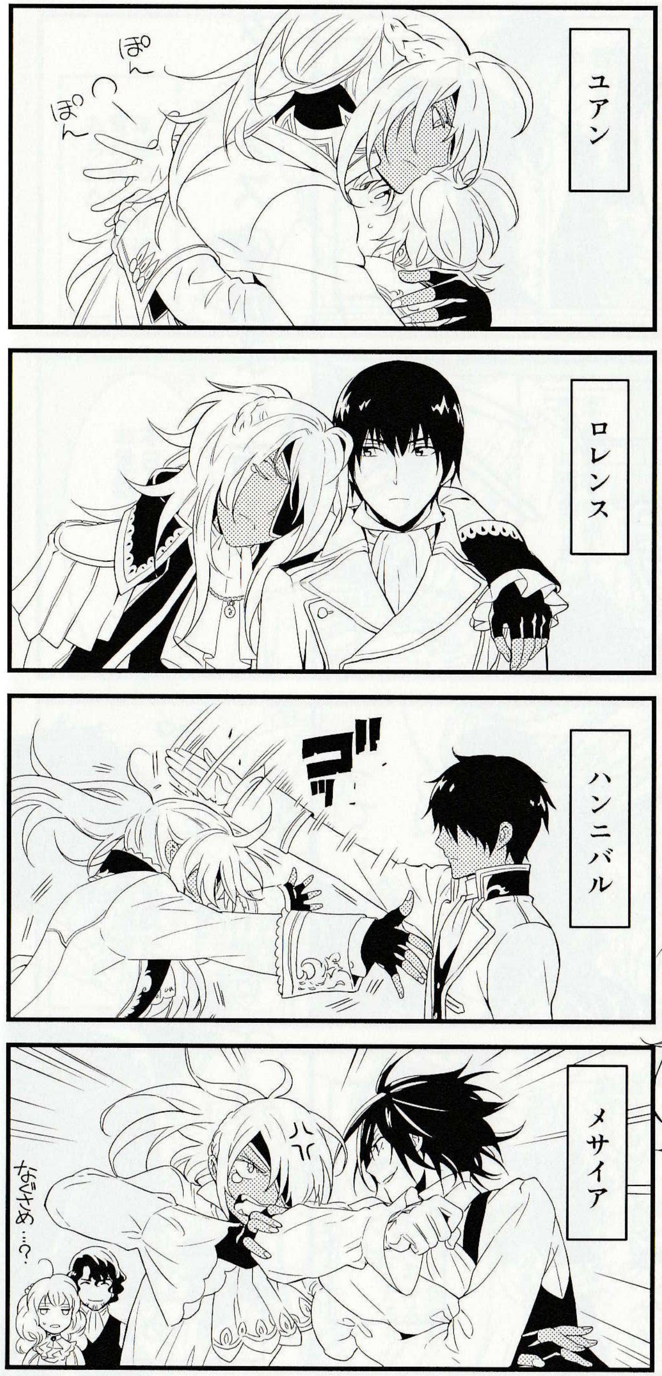
騎士団の王子様1

騎士団の王子様2

14歳頃の騎士団長

タイタスの励まし方

タイタスのなぐさめ方



《心を溶かす宝もの》

「タイタス・ラムを励ましてやることなど、じつに簡単なことだ」

そうハンニバル・モーガンが言ったので、ユアンは頷いた。

「知ってるよ、タイタスはスキンシップに弱いよね」

「あるいは体を動かせば、たいていの悩みは忘れてしまうようだな。俺にも覚えがある」

皇帝の私室に続く居間で、残り少なくなったカップの中身を名残惜しそうに見ながらロレンスが言った。

「体を動かすどころか、そうやってユアンにお茶を淹れて貰いさえすれば、たいていの悩みは忘れてるじゃないか」

お安いやつだな、とオーガストがソファの上で焼菓子をかじりながら幼馴染みをなじった。

「なぜなのか…たしかに心が軽くなる」

とカップを覗き込みながら首を捻るロレンスに、ユアンはまたおかわりを差し出した。

「お茶っ葉はオーガストが外国から取り寄せてくれたんだよ。すごくいい葉っぱなんだ。値段を考えると、ちょっと恐ろしいけど…」

熱いポットの蓋を開けて覗き込むと、開いたばかりの葉が芳醇な匂いを立てている。

「俺もお茶が美味しいとほっとするよ」

「ああ、そうじゃないんだ、ユアン。ロレンスには葉っぱの種類なんかどうでもいいんだよ。そこが重要なわけじゃないんだ」

「そうなの」

不思議そうに顔を向けた皇帝陛下と騎士団長を交互に眺めながら、オーガストはため息をついた。脇に座っているハンニバルが「鈍い子たちに教えてやれ」と促すのを、「そんなお人好しじゃないぞ」と手を振って遮る。

「そういえばオーガストは、甘いものが好きだよね」

と、ユアンが差し出したペイストリーをオーガストは遠慮なく掴み取った。さらにそれを二つ重ね、大口を開けて呑み込むハンニバルを見て、ユアンは目を丸くした。

「いつの間にみんなそんなに甘いものが好きになったんだよ…?」

「皇城に居ると、とにかく頭を酷使するのでね」

そう言って居間に入ってきたのは、書類の束を抱えたメサイアだ。

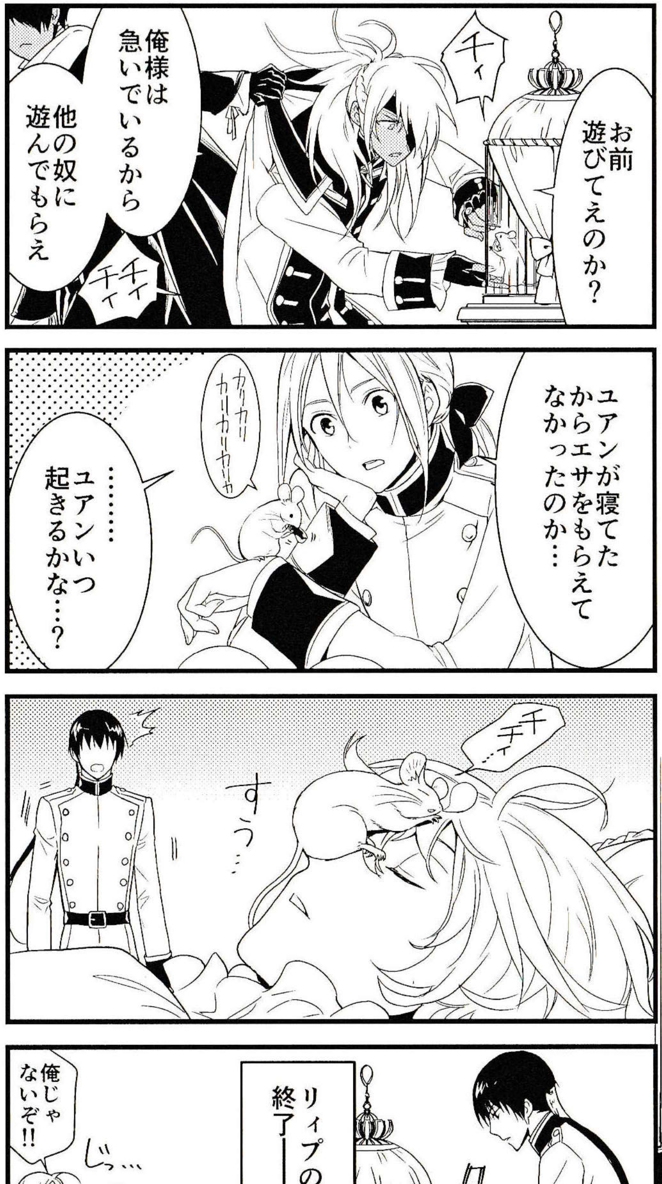
「糖分欲しくなるのかあ…。そういえばメサイアがたまに砂糖をくすねていくと、厨房の人たちが言っていたよ」

「宰相殿…いくらなんでも砂糖をそのまま頂くとかはないだろ…。アルコールをしこたま飲み干しているギデオンや

タイタスのほうがまだ人間味があるぞ」
とオーガストが呆れて言った。
「その二人なら、さっき音楽室でザンのピアノを聞きながら、やはり飲んだくれていたよ」
メサイアがカップを受け取りながら答える。
「これは西ムナの茶葉ですね。実に香りがいい」
「産地としてはかなりレアなのだが、よくご存知で」
とハンニバルが感心しながら言う。西ムナとはエンデトリナがある大陸の中央部にある、小さな国のことだ。
「メサイアは紅茶が好きだよね」
ユアンは微笑んだ。
「それにザンはピアノを弾いていると楽しそうだし、それを聞いているほうも日頃の小さな悩みが溶けていくような気がするよ」
「お茶をごちそうさま。それでは、僕はそろそろ…」
そう言って低いテーブルにカップを置いた拍子にメサイアの上着からなにかが滑り落ち、床にカツンと音を立てた。ロレンスのブーツの先まで転がっていく。騎士団長が拾い上げたものを、ユアンは目を丸くして見つめた。
「椿の実…？」
それは茶色くてつやつやと光る椿の実だった。この季節には皇城の庭のあちこちで見ることができる。
メサイアが舌打ちした。
「あいつめ…」
「もしかしてなにか悩み事があるの、メサイア」
ユアンは首を傾げた。
「それってタイタスでしょう」
タイタス・ラムを慰めたり、励ますのには言葉はいらない。ただ抱きしめたり、喧嘩の相手をすればいい。
そして彼自身の他人の慰め方は一風変わっていた。木の実やらボタンやらキャンディ――ときには生きた小鳥だったりもする――そんな他愛ないものを、すれ違いざまに相手のポケットの中にこっそり入れていくのだ。
子供じゃあるまいし、とメサイアは手袋で包まれた指で眉間を押さえた。
「話があったら聞くよ」
「しかたないですね…。それでは少しお時間頂きます」
メサイアがロレンスから椿の実を受け取りながら言った。
彼が丁寧な手つきでそれをまたポケットに戻すのを見て
(きっとメサイアも…タイタスの小さな贈り物を捨てられずに、どこかに大切にしまい込んであるんだろうな)
とユアンは思った。

《おわり》

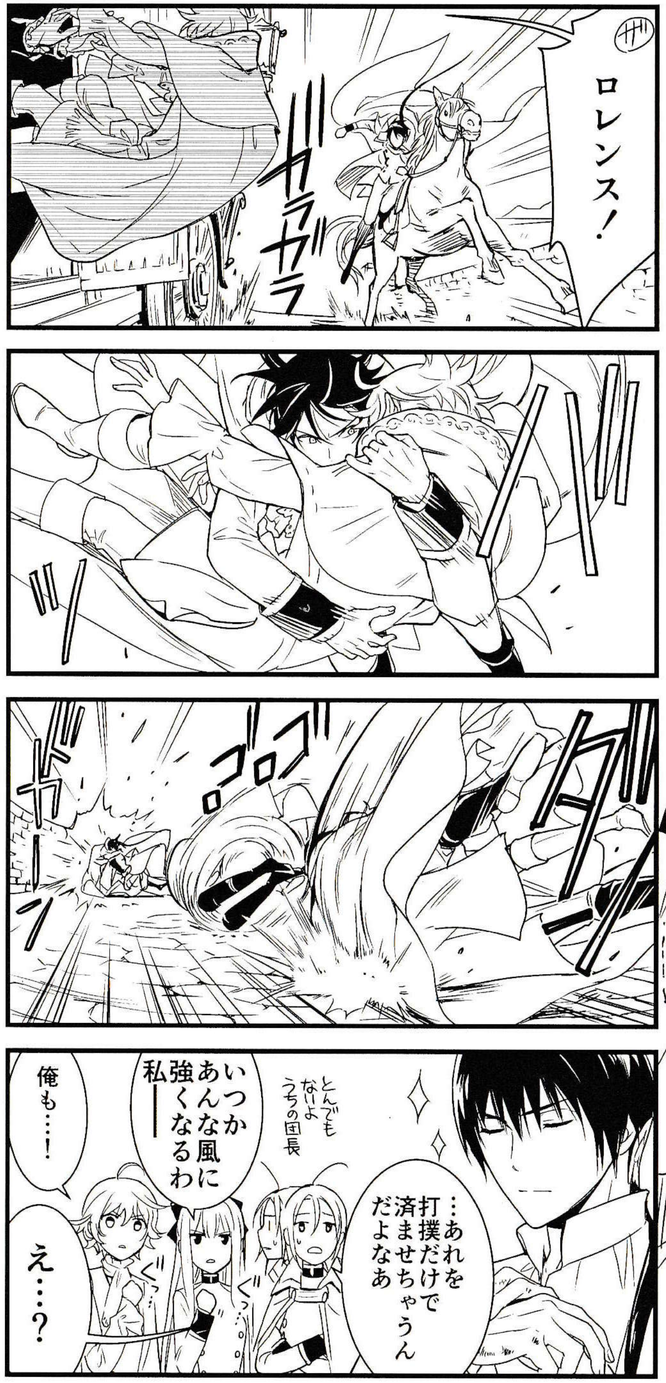
リィプの一日旅先編



OBはカリスマ

メサイア先生の関節技講座

SS5話の騎士団長



先生（にいちゃん）の生徒個別記録（メサイア編）

先生（にいちゃん）の生徒個別記録（ユアン編）

ルーメン城の新城主

頭脳で解決しない系探偵

New Year's Day

皇帝と七候の隠し芸 ー前編

皇帝と七候の隠し芸 ー後編

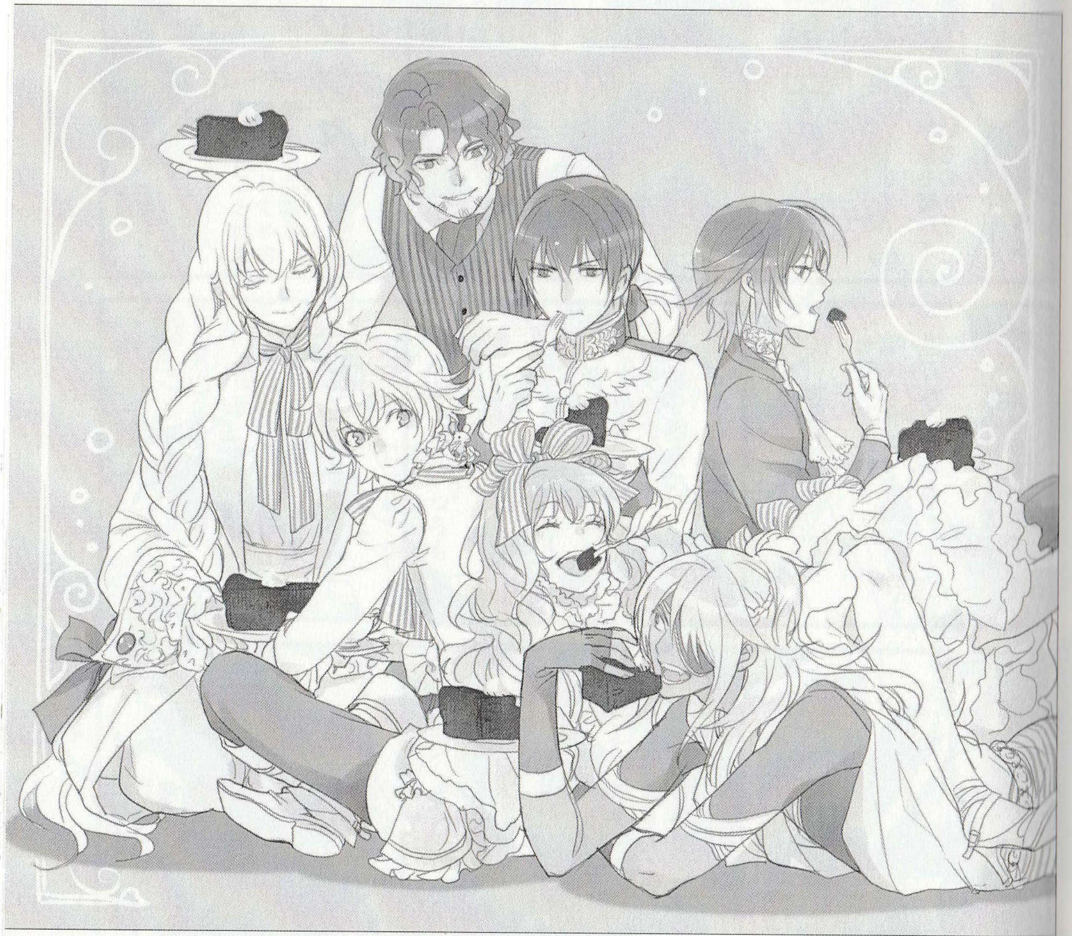
千年迷宮SS 振り返る人々

千年迷宮SS 振り返る暇(ひま)なく進軍中

今週の騎士団長SS16話

バレンタインの思い出

バレンタインの用意



Valentine's Day

バレンタインの夜
ユアン オーガストがチョコレートを振舞っていたのでもらってきたぞ
ありがとう
手紙を書いているのか?
うん
バラが飾ってあったり晩ごはんにチョコが使ってあったり
七候に選ばれて皆も以前のようにはバレンタインを過ごせないからさ
城の皆の気遣いがありがたいなあって…
ユアンのチョコケーキも美味しかった
このホットチョコレートもあったまるね
にいちゃんへ 初めて女子からチョコをもらいました……
え!? 女子って……え?
ついにお婿に…?
※第一厨房の女子たち

千年迷宮SS17話
籠城中のルーメン領主
報告! 敵軍は砦内にて酒宴を開いている模様!
わははは…
くそっ
…我らの兵糧を敵にくれてやる事になるとはな
こちらはレーションが足りないのに!!
殿下! あんた捕虜を相手に何やってるんですか!?
わははは
こいつらも寒いと可愛そうじゃねーかよ
ごくごく
↑お酒
変な指揮官
ギャー
悲鳴が…?!
あれは捕虜の声か?
ぬう…奴ら一体どんなひどい仕打ちを…?
沼に沈んだ兵士の霊が水面にぷかりと浮かび… 濁った目でこちらをじっと見るのです…
俺さま今すぐここを出る!
イヤァァ
出るな!!!
タイタスは敵拠点を占拠した!

千年迷SS12話

残党達の内部事情

騎士団の寒さ対策1

《騎士団長は勝利しない》

「閣下、腕相撲でもいたしませんか」

と言ったのは誰だったか。

帝国騎士団はもともと各地から集まった良家の子息で構成されており、品行方正、文武両道は当たり前。各領軍に総武力は劣るとはいえ、帝国少年の憧れであることは間違いない。

その頂点に立つ騎士団長はまさに栄誉の化身、皇帝の守護神とも呼べる存在で、とくにロレンス・アクロイドといえば武功においては敗北知らずの代名詞と言ってよかった。

「だからたとえ腕相撲でもその団長に勝ったといえば、騎士団を引退して故郷へ引っ込んだ後もいい土産話になるわけだよね」

先ほどロレンスに挑戦して、あっという間に土を付けられたばかりのジェドが言った。

「もちろん寒さを紛らわせるためだっていうのもあるけどさ」

「平たくいうと『思い出作り』とでもいうところかしら」

アナがとくに興味もなさげに答えた。

アナ自身はロレンスとの勝負にこだわらないわけではなかったが、彼女が勝ちたいのは筋力や腕力ではない。ただひとつ、『ユアンを護るのだ』という気持ちにおいての話である。

「だからといって、まさかユアン自ら団長に挑戦するとは…」

黙々と挑戦者の腕をなぎ倒していたロレンスの向かいに、ユアン・ジュノー＝イグニスが座ったのはつい今しがたのことだった。にこやかに「よろしく」と言い、樽の上に肘を乗せた年若き皇帝にためらいの色はない。

その手をほぼ自動的に握りこんだはいいが、目の前に居るのが誰なのかに気付いた騎士団長は、まるで石のように動かなくなった。あまりにも身動きしないので、呼吸すら止めているのではないかと心配になってくる双子である。

一方のユアンといえば、対戦相手の微動だにしない腕を勝負が始まったのだと勘違いしたのか、懸命に倒そうと励んでいる。その様が勇猛なほどに、端から見れば哀れさが増すのだった。

「ユアンも思い出作りがしたかったのね」

無表情にアナが呟く横で、ジェドが頭を抱える。

「いやいや、ほぼ毎日いっしょに過ごしていて、今さら思い出作りもないでしょ！このまま固まってたら日が暮れて全員身動き取れずに凍死してしまうよ」

いまや騎士団の全員が固唾を呑んでその成り行きを見守

っていた。彼らが手汗を握りしめているのは、その勝敗に対してではない。彼らの騎士団長が、皇帝陛下の無邪気にどう対処するかであった。

長らく呼吸を止めていたことに気付き、ロレンスはようやく息を吐いた。たった一人剣を捧げた相手が自分の腕に向かい勇敢に挑んでくる様を見て、腹の底から不思議な気持ちがこみ上げてくる。

（なぜ俺はユアンと闘っているんだ…？）

自分の肉体、技能、知能。鍛えられた腕のその筋のひとすじまでもが、目の前の彼を護るために存在しているはずだ。なのにいったいなぜ――

ふいに握りしめた手の柔らかさに気付いて、さらにロレンスは動揺した。ユアン・ジュノー＝イグニスの手は剣を握るためのものではない。女性ほどたおやかではあるまいが、しかし騎士団の者たちのように、誰かを倒すための力も堅さも持ち備えてはいなかった。

ユアン――と言いかけてロレンスが手を緩めると同時に「ここだ！」とばかりにユアンの目が輝いた。強固だった腕が、ついに自分の攻めに屈したのだと思い込んだらしい。

がっちりとロレンスの手を握り込み、ユアンは全身の体重を掛けるようにしてその腕を引き倒す――その刹那、あっという間もなくユアンの手の甲は冷たい樽の上に押しつけられていた。

「あいたた…」

肘を押さえながらユアンが呻くと、蒼白な顔でロレンスが立ち上がった。

「ユアン…すまない、うっかり…」

「大丈夫！やっぱり強いね、すごいなロレンス。俺、一瞬いけるかなと思ったんだけどなあ」

苦笑いしながら腕を振っているユアンを見て、ロレンスは胸を撫で下ろした。騎士団の中にもほっとした空気が流れ、腕相撲大会はそれでお開きとなった。

降り始めた雪をユアンが見上げ、釣られるようにロレンスも灰色の空を見上げる。

「俺が強くなりたいって言ったら、みんな笑うかなあ」

ロレンスは驚き、主君の顔を見つめた。

「ロレンスには追いつけないかもしれないけれど、やっぱり力が欲しいよ。この国のみんなを支えられるぐらいにさ」

「誰も笑わない」

たぶん俺は一生この者の背を見て歩くのだろう。そう考えながら、ロレンスはまた空を見上げた。

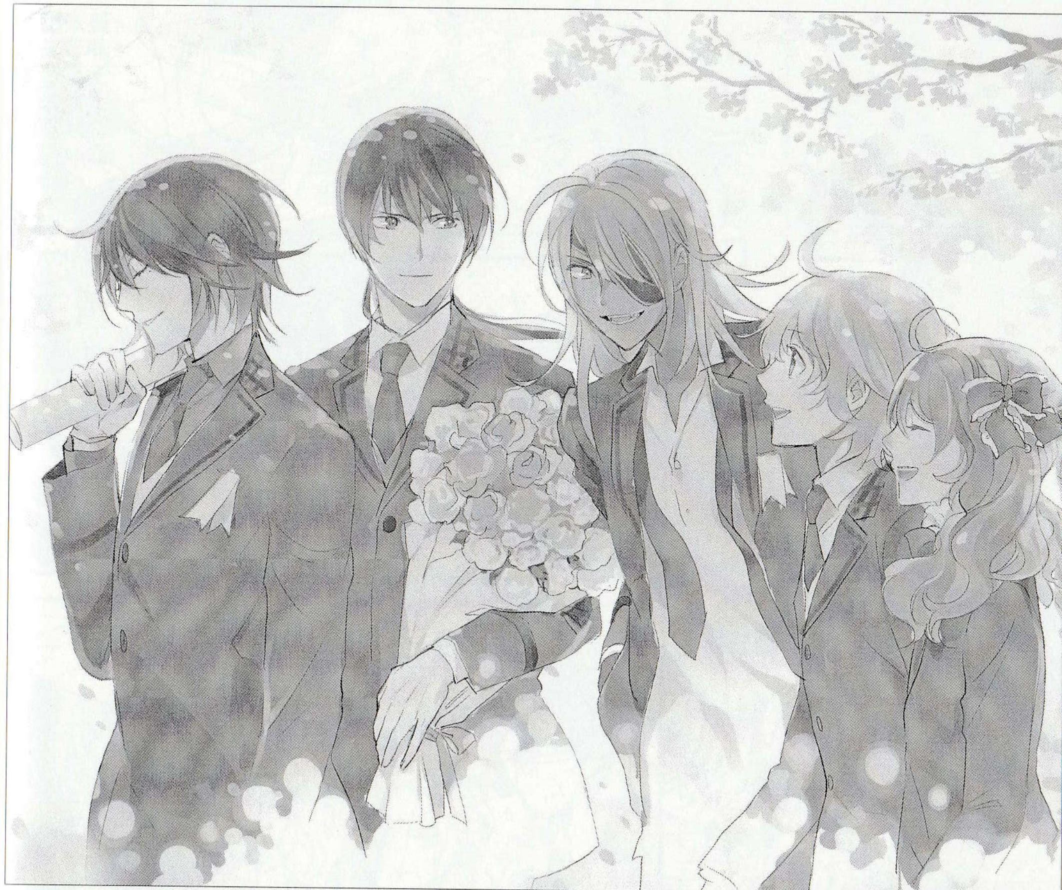
《終》

ギデオンの寒さ対策

タイタスの寒さ対策？

ホワイトデーのおすそ分け
去年のホワイトデーでロレンスがお返しとして焼いたクッキーは岩のように固かった
クッキー生地を混ぜすぎないよう気を付けたまえ
わかった
真剣
ギュギュ
ロレンスの奴が今年もクッキーを焼いたぞ!
オ
美味そうだな 去年よりはいい出来じゃないか?
ギ
ゴリッ…
他は去年よりよくなってるのにな…
ゴリッゴリッ
フフ 私はそこも気に入ってますけどね
ぱくぱく
ゴリッゴリッ
固いのは相変わらずか…
心を込めようとして力がこもってしまうあたりがいかにも彼ららしい

White Day



Graduation Day

千年迷宮学園

卒業式のあと

千年迷宮学園
新生活は引っ越しから
そういえば化学のオセロ先生は春から休職されるそうだよ
そうなんだ…
ピンポーン
いらっしゃい …ってあれ⁉
ユアン
左隣に越してきたので挨拶（あいさつ）しに来た
進学で寮（りょう）を追い出されたのでオーガストにここを紹介してもらったんだが…
ここのオーガスト不動産の物件だったんだ…
今日からまたよろしくねロレンス！
右隣に越してきたので…
メサイアもなの？
ところでユアン
だれが来たか確認しないでドアを開けるのは感心しないな
気をつけるよ…
右の右隣に……
オセロ先生 その手はいったい？
彼の手土産をゆずってくれないだろうか
僕のところにはあいさつに来てくれなくてね…
そういうわけには…

千年迷宮学園
それぞれの新学期
ユアン！また同じクラスだな
うん 二人ともよろしくね
あれっ⁉
タイタス なんで⁉
ふわぁぁ…
あいつ…やっぱ卒業できなかったのか…？
コラーッ！きさまは専門学校へ行けーっ!!
初日から遅刻する気か⁉
すぐそこ
俺様はザイン様に会いに来たんだぜ
卒業してたんだね…
一方大学では…
オセロ先生がなぜここに…？
今春からこちらの大学院に通うそうだ
なに 気にするな
気になるのだが…

皇帝ユアンの成長

おわり

千年迷宮の七王子

Days

Seven prince of the thousand years Labyrinth

ここまで読んでくださりありがとうございました。

相川＋花鶏の今後の活動につきましては
Twitter@aikawayouなど
参考にしていただけたらと思います。

ハル有
halyou2015@gmail.com
pixivID:15890113
2018/6/17 第三版2020/6/30

無断複製、無断転載、オークションの出品などはご遠慮ください。
乱丁、落丁などは在庫がある限りお取替えいたします。

千年迷宮の七王子
Seven prince of the thousand years Labyrinth